

2023年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年11月11日

上場会社名 株式会社アサヒペン
コード番号 4623 URL <https://www.asahipen.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長
四半期報告書提出予定日 2022年11月14日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(氏名) 澤田耕吾
(氏名) 石尾維英
TEL 06-6930-5018
配当支払開始予定日 2022年12月2日

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	8,737	13.2	449	28.5	585	10.8	342	33.5
2022年3月期第2四半期	7,717		629		655		514	

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 327百万円 (46.2%) 2022年3月期第2四半期 609百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
2023年3月期第2四半期	90.93	
2022年3月期第2四半期	132.79	

(注) 1. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値になっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

2. 第1四半期連結会計期間の期首より表示方法の変更を行ったため、2022年3月期第2四半期については、当該表示方法の変更を反映した組替え後の数値を記載しており、対前年同四半期増減率は組替え後の数値を用いて計算しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	21,922	13,493	61.6
2022年3月期	19,726	13,251	67.2

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 13,493百万円 2022年3月期 13,251百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
2022年3月期		25.00		30.00	55.00
2023年3月期		25.00			
2023年3月期(予想)				30.00	55.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	17,500	23.1	700	22.5	950	2.7	550	45.2	145.99

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 第1四半期連結会計期間の期首より表示方法の変更を行ったため、増減率については、当該表示方法の変更を反映した組替え後の前年同期数値を用いて計算しております。

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 1社 (社名)株式会社ザ・ペット

(注)詳細は、添付資料P.9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 有

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P.9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年3月期2Q	4,623,000 株	2022年3月期	4,623,000 株
期末自己株式数	844,465 株	2022年3月期	859,806 株
期中平均株式数(四半期累計)	3,767,506 株	2022年3月期2Q	3,876,551 株

2023年3月期2Q

4,623,000 株

2022年3月期

4,623,000 株

期末自己株式数

2023年3月期2Q

844,465 株

2022年3月期

859,806 株

期中平均株式数(四半期累計)

2023年3月期2Q

3,767,506 株

2022年3月期2Q

3,876,551 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっては、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染対策や各種政策の効果もあり、経済・社会活動が正常化に向かう中で、雇用情勢や設備投資、また、個人消費についても緩やかな回復がみられましたが、ウクライナ情勢の長期化、急速な円安の進行等の影響による原材料価格やエネルギー価格等の高騰、これらに伴う消費者物価の上昇等、依然として景気の先行きは不透明な状況で推移しております。

このような状況のもと、当社グループにおいては、2022年4月27日付でペット用品を取り扱う株式会社ザ・ペットを子会社化したことにより、当第2四半期連結累計期間の売上高は87億3千7百万円（前年同期比13.2%増）となりました。

利益面につきましては、原材料価格等高騰の影響及び株式会社ザ・ペットの株式取得関連費用の計上等により、営業利益は4億4千9百万円（前年同期比28.5%減）となり、営業外収益において、東日本物流センター開設に伴う補助金収入及び株式会社ザ・ペットにおける生命保険解約返戻金収入の計上による増益要因があったものの、経常利益は5億8千5百万円（前年同期比10.8%減）となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、前期において、当社の遊休資産売却による固定資産売却益1億1千3百万円の計上があったことや、株式会社ザ・ペットの株式取得費用に係る税効果が認識されないこと等による法人税等の負担率の増加等により、3億4千2百万円（前年同期比33.5%減）となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より表示方法の変更を行っており、経営成績については当該表示方法の変更を反映した組替え後の前第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の数値を用いて比較して説明しております。表示方法の変更の詳細については、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（追加情報）（表示方法の変更）」に記載しております。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、従来の当社グループの報告セグメントは、「塗料事業」、「DIY用品事業」、「その他」の3つとしておりましたが、株式会社ザ・ペットの子会社化に伴い、第1四半期連結会計期間より、「塗料事業」、「DIY用品事業」、「ペット用品事業」、「その他」の4つの報告セグメントに変更しております。

<塗料事業>

当事業では、夏季の天候不順等の影響により、売上高は41億1千7百万円（前年同期比7.9%減）、利益面では、急速な円安の進行や国際的な情勢不安の影響による原材料価格の高騰等の影響を受けて、セグメント利益は2億9千3百万円（前年同期比33.7%減）となりました。

<DIY用品事業>

当事業においては、売上高は29億6千5百万円（前年同期比6.3%減）となり、販促宣伝関連の費用の減少等により、セグメント利益は1億5千万円（前年同期比12.2%増）となりました。

<ペット用品事業>

当事業においては、売上高は15億4千1百万円となり、株式会社ザ・ペットの株式取得関連費用等の計上により、セグメント損失は5千5百万円となりました。

<その他>

その他の事業は、売上高は1億1千6百万円（前年同期比10.8%増）、セグメント利益は6千1百万円（前年同期比16.2%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は219億2千2百万円となり、前連結会計年度末に比べ21億9千6百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金の増加3億3千7百万円、受取手形の増加1億3千万円、売掛金の増加3億7千3百万円、電子記録債権の増加1億7千2百万円、有形固定資産の増加2億2千9百万円、のれんの増加9億5千1百万円によるものです。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は84億2千9百万円となり、前連結会計年度末に比べ19億5千3百万円増加いたしました。これは主に支払手形及び買掛金の増加1億6千万円、短期借入金の増加7億円、長期借入金の増加12億円によるものです。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は134億9千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億4千2百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金の増加2億2千9百万円によるものです。この結果、自己資本比率は61.6%(前連結会計年度末は67.2%)となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は47億2千4百万円となり、前連結会計年度末と比較して3億3千7百万円の増加となりました。

その主な要因につきましては以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、使用した資金は1億9千1百万円(前年同四半期は5億2千1百万円の収入)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益5億8千1百万円、減価償却費1億6千4百万円及び棚卸資産の減少額1億1千2百万円等の収入に対して、売上債権の増加額2億4千5百万円、仕入債務の減少額4億4千万円及び法人税等の支払額2億6千2百万円等の支出によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は12億6千7百万円(前年同四半期は4千5百万円の収入)となりました。これは主に、投資有価証券の償還による収入1億円等に対して、有形固定資産の取得による支出1億9千1百万円及び子会社株式の取得による支出11億7千4百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、得られた資金は17億8千6百万円(前年同四半期は1億5千5百万円の使用)となりました。これは主に、短期借入金の純増額7億円及び長期借入れによる収入12億円に対して、配当金の支払額1億1千3百万円等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年6月29日の「業績予想及び配当予想に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,386,757	4,724,393
受取手形	411,025	541,777
売掛金	2,138,654	2,511,853
電子記録債権	585,777	758,717
有価証券	199,971	123,613
商品及び製品	2,515,314	2,493,684
仕掛品	19,676	20,586
原材料及び貯蔵品	229,042	248,198
その他	149,785	170,341
貸倒引当金	△11,373	△32,877
流動資産合計	10,624,631	11,560,288
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,306,681	2,311,109
土地	3,378,253	3,506,785
その他（純額）	458,530	555,525
有形固定資産合計	6,143,465	6,373,420
無形固定資産		
のれん	—	951,653
その他	240,027	236,519
無形固定資産合計	240,027	1,188,172
投資その他の資産		
投資有価証券	2,303,493	2,283,938
その他	434,231	536,641
貸倒引当金	△19,695	△20,220
投資その他の資産合計	2,718,029	2,800,359
固定資産合計	9,101,523	10,361,952
資産合計	19,726,155	21,922,241
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,171,924	1,332,603
電子記録債務	316,689	312,959
短期借入金	580,000	1,280,000
1年内償還予定の社債	500,000	1,000,000
未払法人税等	295,828	269,663
引当金	221,618	160,181
その他	615,940	564,110
流動負債合計	3,702,000	4,919,518
固定負債		
社債	1,500,000	1,000,000
長期借入金	200,000	1,400,000
役員退職慰労引当金	7,665	520
退職給付に係る負債	845,149	906,269
その他	220,224	202,703
固定負債合計	2,773,040	3,509,494
負債合計	6,475,041	8,429,012

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,869,017	5,869,017
資本剰余金	4,171,826	4,171,329
利益剰余金	3,815,007	4,044,698
自己株式	△1,543,062	△1,515,528
株主資本合計	12,312,788	12,569,517
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	943,050	926,898
退職給付に係る調整累計額	△4,724	△3,187
その他の包括利益累計額合計	938,325	923,711
純資産合計	13,251,114	13,493,228
負債純資産合計	19,726,155	21,922,241

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	7,717,023	8,737,417
売上原価	4,905,708	5,966,227
売上総利益	2,811,315	2,771,189
販売費及び一般管理費	2,181,582	2,321,203
営業利益	629,732	449,986
営業外収益		
受取利息	604	782
仕入割引	18,365	15,258
受取配当金	26,270	28,148
保険解約返戻金	—	52,085
補助金収入	—	41,558
その他	4,853	30,851
営業外収益合計	50,094	168,684
営業外費用		
支払利息	4,104	10,163
株主優待費用	9,464	8,008
その他	10,539	15,401
営業外費用合計	24,107	33,574
経常利益	655,719	585,096
特別利益		
固定資産売却益	113,234	—
投資有価証券売却益	—	29
特別利益合計	113,234	29
特別損失		
減損損失	1,879	3,500
特別損失合計	1,879	3,500
税金等調整前四半期純利益	767,073	581,624
法人税、住民税及び事業税	256,919	236,313
法人税等調整額	△4,629	2,724
法人税等合計	252,289	239,037
四半期純利益	514,783	342,587
親会社株主に帰属する四半期純利益	514,783	342,587

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	514,783	342,587
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	91,584	△16,151
退職給付に係る調整額	3,484	1,537
その他の包括利益合計	95,069	△14,613
四半期包括利益	609,852	327,973
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	609,852	327,973

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	767,073	581,624
減価償却費	156,569	164,395
減損損失	1,879	3,802
のれん償却額	—	60,231
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△25,356	△52,986
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	—	△20,000
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	219	△11,402
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	△23,932	—
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	8,815	2,411
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△73,734	△7,144
株式報酬費用	82,322	17,104
固定資産処分損益 (△は益)	△112,758	△2,512
為替差損益 (△は益)	△652	△10,858
有価証券評価損益 (△は益)	—	6,346
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△29
受取利息及び受取配当金	△44,739	△28,923
支払利息	4,104	10,163
売上債権の増減額 (△は増加)	△272,083	△245,019
棚卸資産の増減額 (△は増加)	187,341	112,122
仕入債務の増減額 (△は減少)	△133,755	△440,752
未払消費税等の増減額 (△は減少)	45,834	△43,512
その他	△26,864	△48,526
小計	540,283	46,537
利息及び配当金の受取額	46,360	30,082
利息の支払額	△4,103	△4,966
法人税等の支払額	△61,302	△262,978
営業活動によるキャッシュ・フロー	521,238	△191,326
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△145,862	△191,114
有形固定資産の売却による収入	203,261	8,645
投資有価証券の取得による支出	△3,875	△3,442
投資有価証券の売却による収入	—	57
投資有価証券の償還による収入	—	100,000
子会社株式の取得による支出	—	△1,174,696
貸付けによる支出	△500	—
貸付金の回収による収入	216	200
その他の固定資産の増減額 (△は増加)	△11,060	△7,182
投資その他の資産の増減額 (△は増加)	3,635	△125
投資活動によるキャッシュ・フロー	45,814	△1,267,656
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	700,000
長期借入れによる収入	100,000	1,200,000
長期借入金の返済による支出	△100,000	—
自己株式の取得による支出	△830	△611
配当金の支払額	△154,493	△113,244
財務活動によるキャッシュ・フロー	△155,323	1,786,143
現金及び現金同等物に係る換算差額	240	10,475
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	411,970	337,636
現金及び現金同等物の期首残高	3,550,875	4,386,757
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,962,846	4,724,393

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年7月19日、会社法第370条の規定による取締役会の決議に基づき、譲渡制限付株式報酬としての自己株式15,680株の処分を行っております。この結果、当第2四半期連結会計期間末において、資本剰余金が497千円減少し、自己株式が28,140千円減少しております。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

第1四半期連結会計期間において、株式会社ザ・ペットの株式を全数取得したため、連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(税金費用の計算方法の変更)

当社及び連結子会社は、従来、税金費用については、年度決算と同様の方法により計算しておりましたが、四半期決算に迅速かつ効率的に対応するため、第1四半期連結会計期間より連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法に変更しております。

なお、この変更による四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(表示方法の変更)

第1四半期連結会計期間より、当社グループの実態を適切に反映させるため、従来、「営業外収益」に表示しておりました「受取地代家賃」及び「太陽光売電収入」による収益を「売上高」に集約して表示し、「営業外費用」に表示しておりました「賃貸資産維持管理費」、「減価償却費」及び「売電維持管理費」は、「売上原価」に集約して表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、「営業外収益」の「受取地代家賃」に表示しておりました35,018千円及び「営業外収益」の「その他」に含めておりました「太陽光売電収入」12,160千円は、「売上高」として組替えており、「営業外費用」の「その他」に表示しておりました「賃貸資産維持管理費」5,654千円、「減価償却費」5,334円及び「売電維持管理費」528千円は、「売上原価」として組替えております。

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	塗料事業	D I Y用品事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	4,445,866	3,165,678	7,611,544	19,176	7,630,720
その他の収益	—	—	—	86,302	86,302
外部顧客への売上高	4,445,866	3,165,678	7,611,544	105,478	7,717,023
セグメント間の内部売上高又は振替高	23,988	—	23,988	—	23,988
計	4,469,855	3,165,678	7,635,533	105,478	7,741,011
セグメント利益又は損失	443,658	133,817	577,476	52,975	630,451

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流サービス業及び賃貸業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	577,476
「その他」の区分の利益	52,975
セグメント間取引消去	△718
四半期連結損益計算書の営業利益	629,732

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
報告セグメントに配分されていない減損損失は1,879千円であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自2022年4月1日 至2022年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	塗料事業	D I Y用品事業	ペット用品事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	4, 113, 833	2, 965, 282	1, 541, 396	8, 620, 512	28, 531	8, 649, 043
その他の収益	—	—	—	—	88, 374	88, 374
外部顧客への売上高	4, 113, 833	2, 965, 282	1, 541, 396	8, 620, 512	116, 905	8, 737, 417
セグメント間の内部売上高又は振替高	3, 858	—	—	3, 858	—	3, 858
計	4, 117, 691	2, 965, 282	1, 541, 396	8, 624, 370	116, 905	8, 741, 275
セグメント利益又は損失	293, 981	150, 208	△55, 651	388, 539	61, 575	450, 114

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流サービス業及び賃貸業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	388, 539
「その他」の区分の利益	61, 575
セグメント間取引消去	△128
四半期連結損益計算書の営業利益	449, 986

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
報告セグメントに配分されていない減損損失は3, 500千円であります。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、株式会社ザ・ペットの株式を全数取得し連結子会社としたことにより、新規事業として報告セグメントに「ペット用品事業」を追加しております。

また（追加情報）（表示方法の変更）に記載のとおり、従来、「営業外収益」に表示しておりました「受取地代家賃」及び「太陽光売電収入」による収益を「売上高」に集約して表示し、「営業外費用」に表示しておりました「賃貸資産維持管理費」、「減価償却費」及び「売電維持管理費」は、「売上原価」に組替えて表示しております。これより、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報についても組替え後の数字を記載しております。なお、当該変更により、組替え前と比較して「その他」セグメントの売上高の「外部顧客への売上高」が12, 160千円及び「その他の収益」が35, 018千円それぞれ増加しており、セグメント利益が35, 662千円増加しております。